

## 中国少数民族の歌唱文化

— 中国雲南省・納西（ナシ）族を例にして —

金 縄 初 美

### はじめに

中国少数民族の歌唱文化は口頭による伝承が多く、近年の社会変化に伴って伝承が断たれる場合も多い。中国における口承文化の保存活動については、1950年代から民族工作の一環として少数民族民間文学の調査、聞き取り、収集がおこなわれ、1980年代に各民族の「文学集成」や「文学史」が数多く編纂・出版された。しかし、これらの文献においては民間文学の採集・編纂に重点がおかれたため、各民族の民間文学と生活や信仰といった実生活との関わりについてはあまり研究されてこなかった。

日本では、1990年以降、国文学の分野において、中国少数民族の歌唱に関する研究が盛んに行われた。この分野の研究は、日本では8世紀以降残されることがなかった「歌垣」文化について、1990年代半ばまで自然な形で行われていた中国南部の少数民族の「歌垣」を現地調査によって比較検討することに焦点がおかれた。これらの研究の成果もその後急速に消滅していく中国少数民族の歌唱文化の研究・保存に対して有益な結果をもたらしたといえよう。

さらに中国では、2003年から「中国民族民間文化保護プロジェクト」が実施され、民族民間文化の整理、調査、記録が重点的に進められ、ユネスコの無形

- 
- 1) 遠藤耕太郎 2003年『モソ人母系社会の歌世界調査記録』大修館書店、工藤隆 2006年『雲南省ペー族歌垣と日本古代文学』勉誠出版、工藤隆 2015年『歌垣の世界 歌垣文化圏の中の日本』勉誠出版、曹咏梅 2011年『歌垣と東アジアの古代歌謡』笠間書院等が挙げられる。

遺産文化財への申請・登録も積極的に行われている。無形遺産文化財への申請に関して、これまで一部の学者によって研究されてきたが、地元政府や有識者も民族民間文化に関心を持つようになり、地元から発信される取り組みもみられるようになった。

しかし、中国少数民族の歌唱文化は全体的な流れとして、母語の消失ともあいまって維持するのが困難になっている。また観光化の流れのなかで民族文化を保存しようとした場合、注目されやすい文化のみに焦点が当てられ、その歌の内容や歌い手、及び歌われる場所など、歌をめぐる周辺環境にも大きな変化がみられる。

そこで本稿では生活への理想や思考が反映される家庭と婚姻及び恋愛の歌に焦点をあて、現地で調査した現在の婚姻と家庭の状況とも照らし合わせながら、少数民族歌唱文化の分析を行いたい。

## 1. 少数民族の民間文学について

まず、歌唱文化と民族の生活や習俗との関係を述べる前提として、歌唱文化について整理したい。歌唱文化が内包される民間文学については、『少数民族民間文学概論』を参考に以下の特徴にまとめることができる。

- 1) 民族の生活、習俗、宗教信仰が反映されている。
- 2) 即興でつくられるものが多いため、広く伝承され、たえず加工修正されてきた。
- 3) 口頭伝承である。
- 4) 口頭伝承過程において、大筋はあまり変わらないが、細部に変化がみられる伝達変異がおこる。
- 5) 匿名性が高く、集団による創造、保存、伝承がなされる。

本稿で取り上げる歌唱文化は以上の民間文学の概論のいずれにも該当するが、民衆によって創作されることが多いため、民族の生活、習俗、宗教信仰などが広く反映されやすく、即興性が高い。歌唱には、独唱と対歌があるが、独唱は

一人で即興によって感情を吐露する形式が多く、対歌は男女が即興で歌を掛けたり、競ったりする「歌壇」と呼ばれるものと、下記に挙げる女神に捧げる歌など、一定の歌詞に従って男女が対になって歌う「問答歌」に分けられる。

- 1 マダミ ガム女神の髪飾りは何でできている？
- 2 マダミ ガム女神の髪飾りは天上の雲でできている。
- 1 マダミ ガム女神の眉は何でできている？
- 2 マダミ ガム女神の眉は山の白香葉でできている。
- 1 マダミ ガム女神の服は何？
- 2 マダミ ガム女神の服は松の枝。
- 1 マダミ ガム女神が生み出した水は何？
- 2 マダミ 瀘沽湖の水がガム女神を育んだ。
- 1 マダミ ガム女神の帯は何で作られている？
- 2 マダミ ガム女神の帯は赤い岩石で作られている。
- 1 マダミ ガム女神はどんなスカートを穿いている？
- 2 マダミ 百草のスカートを穿いている。
- 1 マダミ ガム女神はどんな敷物に座っている？
- 2 マダミ 大地で作った敷物に座っている<sup>2)</sup>。

## 2. 納西（ナシ）族の概況と婚姻形態

2000年の統計によると納西（ナシ）族の人口は約30万である。納西語を使用し、居住地は雲南省東北部で、主には麗江地区、寧蒗地区、中甸地区の3地区に分けられる。この3地区は麗江及びその周辺地域にあたるが、各地区は3000メートル級の山で遮られ、地域によって風習の違いもみられる。漢籍文献の記載から、納西族の祖先は古代氐羌族であり、古代戦乱から逃れるため中国北方から四川省を経て南下し、雲南省寧浪地区に至ったのち、一部は金沙江を渡っ

---

2) ガム女神とは雲南省に居住する納西族のサブグループである摩梭（モソ）人が信仰する女神である。また歌詞中の「マダミ」とは、「ああ」という意味の感嘆詞である。

て麗江に定住し、一部はさらに中甸に至ったと考えられる。

生業は水稻耕作、トウモロコシや野菜類の栽培などの農業とヤギやブタなどの家畜の飼育であるが、近年観光業が非常に盛んになっている。麗江は1997年にユネスコの世界文化遺産に登録され、旧市街地と納西族にとっての聖山である玉龍雪山では観光業が発展している。また寧蒭地区では瀘沽湖という高原湖の景観を楽しみ、さらには現地民族の母系社会の風習を観光するエスニックツアーが盛んである。中甸はシャングリラ（桃源郷）として注目され、観光業発展のため地名も「シャングリラ」に改名した。

この3地区で用いられている言語はチベットビルマ語族に属する納西語であるが、方言の差異があり、ゆっくり会話をすると通じる程度の類似点がある。3地域間の大きな相違点は婚姻家庭制度であろう。以下地域間の違いを整理する。

#### 1) 麗江地区居住の納西（ナシ）族

一夫一妻の父系家族で生活する。周囲の漢族、蔵（チベット）族、彝（イ）族、白（ペー）族との通婚が長年行われてきた。明王朝以降、山間部の平地に位置して温暖な気候に恵まれている麗江を支配した納西族の土司が、積極的に漢文化を取り入れたため、麗江の納西族は社会組織から冠婚葬祭にいたるまで漢文化の影響を大きく受けた。

2) 寧蒭地区居住の摩梭（モソ）人（かつては納西族と認定されていたが、1989年に納西族のサブグループである摩梭人として認定される）

寧蒭地区は麗江から北東に270キロメートル離れた山間部の盆地である。この地域には婚姻形態には通い婚形式の「走婚」、及び「妻方居住」、「夫方居住」の3タイプがみられる。

走婚は、男女は互いの感情を最も重視した関係を持ち、強制的には結ばれない。走婚関係を結ぶ男女は互いに「阿夏（アシャ）」と呼び合い、仲の良い友達を「阿注（アチュ）」と呼ぶ。男女は同居せず、互いに自分の母親と同居し、男女間で経済的關係を有しない。かつては祭りや労働の中で知り合うことが多く、付き合い始めは周囲に秘密にする。両者の関係が安定すると、まず母親、

そして親戚や友人に知らせ、子供ができると、関係は完全に公開され、子供は母方の家で育てられる。父親は自分の子を育てる義務はないが、母方のオジとして自分の姉妹の子（オイやメイ）の養育義務をもつ。男女が別れたいときは、どちらかが別れ話を切り出すか、男性が女性のもとを訪ねないか、あるいは女性が男性を部屋に入れないようにして別れる。しかし今日、若者が進学や出稼ぎ等で地元を離れて都市部に行くケースも多く、「走婚」や「母系家族」は少なくなっている。

家族形態も3種類に分けられる。1つは母系家族、2つ目は母系父系並存家族、3つ目は父系家族である。母系家族の特徴は、成人男女は走婚を行うので、昼間は男女とも母親の家で生活し、通常一生生家を離れない。家族内の儀式や比較的大きな売買、社会的交際の方面はオジか能力のある男性が受け持ち、財産の保管や、分配、生活のやりくり、家事一般は女性が受け持つ。各家族には「達布（ダブ）」と呼ばれる家長（一般的には、仕事ができる女性が受け持つ）がいる。家族は家長に従わなければならないが、重要な事柄はみな家族で相談して決められる。配偶者を家族に引き入れないので、家族内には婿や嫁、姑、小姑等の関係はなく、一つの母系血縁集団であり、家庭の財産も基本的に祖母-母-娘と母系によって受け継がれる。母親を崇拜する観念が強く、「達布（ダブ）」を中心に仲睦まじく団結しており家族内での暴力や暴言は許されない。公共の墓地をもち、共通の先祖を祭る。母親とその姉妹はみな「母」と呼ばれる一方、母方オジは「阿烏（アウ）」つまり「オジ」と呼ばれ、実父への呼称である「アダ」と区別されるが、「アウ」という呼称のほうが親密な関係を表すとされる。また母系家族は分家が少なく、姉妹が多いほど子孫が増える。家族は少なくとも10人前後で、多ければ20～30人である。家族が多いほど各方面の仕事が分担できるため、一人あたりの労働負担が軽くなり、生活が豊かになると認識されてきた。一方で、寧蒭地区にある瀘沽湖の周辺では1990年代から観光業が盛んになり、観光客に宿泊施設を提供するために、自宅を民宿に改築した。2010年以降、外部の商人が民宿を50年などの長期使用権を用いて借用し、地元の住民は家賃収入で暮らすようになった。

母系父系並存家族は家庭内に母系の成員もいれば、父系の成員もいるという構造である。一世代目は父系であるが、二世代目からは配偶者と同居せず、女性家族の子供たちは母親を同居している状況もあれば、母系と父系が一世代ごと交互する家族もある。今日では、漢族やプミ族及びチベット族との通婚も増え、母系父系併存家族が大半を占めるようになっている。

父系家族は、家族全員が父系の4～5人家族である。男性が家長をし、男は妻を娶り、女は嫁にいき、父子継承をする。摩梭社会では、母系の影響が強いため、父系家族の基盤はとても不安定で、2、3代続けて男は妻を娶り、女は嫁ぐことを繰り返してようやく形成される。

3) その他、中甸地区と寧浪地区の境である木里県俄巫などに居住する一部の納西族

上述した摩梭人の「走婚」に似た婚姻形態である「安達（アング）婚」を行っている。「安達」とは納西語で「友達」という意味で、昼はそれぞれの家庭で生活し、夜は女性が男性を訪ね、両者の間に生まれた子供は女性の家庭で養われる。山間地区の辺境地は交通の便が非常に悪く外部との通婚が非常に難しいため、親族内での婚姻も多い。この地には他に一妻多夫、一夫多妻など数種類の婚姻形態が受け継がれている。俄巫は麗江、寧浪、中甸の3地区が交差する場所に位置し、その婚姻家族形態も各地の影響を受けているといえる<sup>3)</sup>。

以上のように、納西族の婚姻と家族制度は歴史、宗教などの相違、生産活動などの地域差などの影響を受け、多様な様相を見せている。

### 3. 納西族（摩梭人）の歌に反映される婚姻観

納西族の民間文学はとても多様である。本稿は歌唱文化と婚姻観について焦点をあてるので、以下、主に家族への歌と情歌を中心に取り上げる。麗江を中心に居住する納西族は、明王朝から清王朝にかけて地元の首領である木土司による教育によって漢化されていたので、村落の人々が集合した際の儀式に伴う

---

3) 和少英 2000年『納西族文化史』雲南民族出版社 p58-86 参照

歌は保存されてきたが、男女が即興で歌う対歌はほとんど残されていない。

摩梭人の場合、村の中あるいは家の中で情歌を歌うことを禁じており、山などでの労働の時にだけ歌う。伝統的な曲調はあるが、固定的な歌詞はなく、一般的に即興で歌う。情歌は歌詞が一般的に二句を一組とする形で成り立ち、物や自然物を比喩に用いて意味を際立たせている歌もあれば、大胆率直に感情を描写する歌もある。

本稿は、主に1985年から1987年にかけて収集整理された資料である、『雲南摩梭人民間文学集成』（1990年中国民間文芸出版社）と宋兆麟氏が1981年に現地調査で収集した歌を収めた「女兒国的歌」『民間文学壇論』（1985：28-32）から、家族に対する歌28首、情歌132首を取り上げて分析した。『雲南摩梭人民間文学集成』の副編集者である摩梭人出身知識人の拉木・嘎吐薩氏は、摩梭の情歌を収集し整理するにあたって次のように述べている。

摩梭の情歌を漢語に訳すのは非常に困難が生じる。摩梭語は一つの言葉にいくつもの意味がこめられている場合もあるし、意味が細かく分けられる場合もあるといったように、非常に伸縮性のある言語である。よって、漢語に訳すと、二句に収まりきれない場合が多く、時には七、八句になってしまう場合もある。そうすると、二句一組で成り立っている摩梭の歌の芸術性が失われることとなり、完璧な訳をつけるのが難しくなるのである。しかし、二句一組という摩梭の情歌の基本的形体を大切にしたいので、漢語訳も二句一組の形にした<sup>4)</sup>。

以上の記述から、口頭伝承を他言語に翻訳する時の困難を伺い知ることができる。今回取り上げる摩梭人の情歌は、漢語に翻訳されたものを筆者が日本語に翻訳し分析したが、この場合にも拉木・嘎吐薩氏の意向を重視して二句一組の形で翻訳を進めた。

以下、摩梭人の家族観や婚姻観をよく反映していると思われる歌を1) 家族への歌、2) 情歌の2種類に分けて、いくつか例として取り上げる<sup>5)</sup>。

4) 傅信責任編集 1990年『雲南摩梭人民間文学集成』中国民間文芸出版社 p275 参照

5) 歌詞中の下線は考察の便宜上つけたものであり、訳中の（ ）は漢語への翻訳時につけられたものである。

## 1) 家族への歌

### 1)-1 獻給媽媽的歌 (母へ捧げる歌)

媽媽是扶養我的人，                    母は私を育ててくれた人  
一定要報答她的恩情。                必ず母の恩情にこたえなければならない

村里的人對我說三道四，            村の人は私にとやかく言うけれど，  
唯有母親最知道我的心。            母親が一番私の気持ちを分かってくれる。②

讓我嫁到男人家，                    私を嫁がせようとしても  
我怎捨得母親。                        私は母を離れることはできない ①

我找了第一個阿注，                    初めて阿注（異性の友人）ができたら，  
應該征求媽媽的同意。                母の同意を求める。②

「女兒国的歌」『民間文学壇論』28頁

伝承地区：寧蒭県永寧区

収集翻訳：宋兆麟

日本語翻訳：筆者

### 1)-2 忘不了母愛忘不了母親的恩情 (母の愛を忘れない。母の恩情を忘れない)

一切煩惱的事情都可以忘記，            すべての悩みは忘れることができる。  
唯独忘不了我母親的恩情                ただ母親の恩情は忘れることができない。

聽到媽媽慈愛的呼喚，                    母の慈愛の呼びかけは  
就像喝了一杯香醇的蘇里瑪。            まるで芳醇な香りの蘇理瑪酒<sup>6)</sup>を飲むよ  
うだ

---

6) 蕎麦や高粱を使った発酵酒。摩梭人の各家庭で醸造される。

小时候母親像待候小鳥一樣扶養我，  
長大了的兒女卻像老鷹一樣飛走。

母親含辛茹苦養育了我，  
我長大了要做媽的貼心人。

世上的媽媽都一樣，  
一片熱心養育自己的孩子。

別人都理解不了我的情意，  
只有母親能知道我的心底。

只要阿媽微笑著在我身邊。  
我一天三頓喝稀飯也甘甜。

我心目中選定的阿珠，  
要讓我的阿媽滿意。

阿媽養我操碎了心腸，  
我也要時刻操心想著媽媽。

要不是阿媽手把手引導我。  
我找不到做人的正路。

小さい頃母親はひなを育てるように私を  
育ててくれたが、  
大きく育った子どもたちは鷹のように遠  
くへ飛んでいく。

母親は苦勞して私を育ててくれ、  
私は成長して母のことがよく分かる人  
になる。

世の中の母はみな同じ、  
一生懸命子どもを育てる。

他の人が私の気持ちを理解できなくても、  
母だけは私の気持ちを分かってくれる。②

母がそばで笑っていてくれるだけで、  
毎日三食お粥を食べても心が満たされる。

私が心の中で選んだ阿注（アチュ・異性  
の友人）を  
母に気に入ってもらいたい。②

私を苦勞して育ててくれた母、  
私もいつも母のことを心配している。

もし母が私の手をとって導いてくれな  
ければ、  
私は人としての正しい道を見つけるこ  
とはできなかった。

阿媽死了就永遠見不到了。

母が亡くなったら永遠に母に会うことは  
できなくなるので、

阿媽建在時要細心照料她。

母が元気なときに世話をしあげなければ  
ならない。

生下我的阿媽的屋里。

私を生んでくれた母の家は、

即使再貧困也顯得快樂。

たとえ貧しくても楽しい。

雖然阿媽已經不在人間了，  
阿媽養育我的恩情在我心中。

母はすでにこの世にはいないが、  
育ててくれた恩情は私の心に残っている。

養育了我的阿媽很貧窮，  
可我不能丟不下阿媽走遠方。

私を育ててくれた母はとても貧しかったが、  
私は母を捨てて遠くへ行くことはでき  
ない。①

貧富貴賤我不想，  
只想如何讓阿媽過得愉快。

私は貧富貴賤は考えず、  
ただどのように母を喜ばせようかという  
ことだけを考えている。

走到高山迎面吹來了山風，  
我想起阿媽得手撫摸我的時候。

高山に上って山風に吹かれると、  
母が私を撫でてくれた時のことを思い出す。

辛辛苦苦養育我的是母親，  
我活在世上為母親一口氣。

苦勞して私を育ててくれた母、  
母のために懸命に生きます

『雲南摩梭人民間文学集成』251頁

伝承地区：寧蒗県永寧区拉伯郷 など

演唱者：比馬，愛馬，採爾拉姆娜波旦，  
姑旦咪（摩梭人）など

収集翻訳：拉木・嘎吐薩

日本語翻訳：筆者

### 1)-3 家族内の歌

在家媽媽管事，  
在外舅舅管事。

家では母が力もち，  
外ではオジが力をもつ。③

不能往火塘上吐痰，  
不能在舅父面前說壞話。

囲炉裏に痰を吐き捨ててはいけないし、  
オジの前で汚い話はしてはいけない。③

「女兒国的歌」『民間文学壇論』28頁

伝承地区：寧浪県永寧区

収集翻訳：宋兆麟

日本語翻訳：筆者

### 1)-4 自古有礼舅為大（昔からオジが偉大だという礼節がある）

亡くなった母方オジへの歌

阿哈巴拉唱百首，  
要用瑪達咪結尾。  
自古有礼舅為大，  
如今舅舅已辭世。

阿哈巴拉（アハバラ）<sup>7)</sup>で歌い始め，  
瑪達咪（マダミ）で歌い終わる。  
古くからオジが偉大だという礼節がある。③  
今オジはこの世を去ってしまった。

吉祥的時光到来了，  
幸福的日子到来了，  
親朋好友都集中了，  
卻不見舅舅的影子。

吉祥な時間がきました。  
幸福な日がきました。  
親戚友人が集まりました。  
でもオジの姿は見えません。

---

7) 阿哈巴拉（アハバラ）とは、摩梭の歌によく用いられる感嘆詞。

一日三餐擺在供桌上，  
甥兒姪女苦苦思念着舅舅；  
只有夢中才能見到舅舅，  
見到了你卻摸不到你。  
好日子像一朵朵金花  
好生活像一串串珍珠；

過去舅舅在世時，  
缺吃少穿也充滿歡樂。

你為何去世這麼早，  
使我們失去報答你的時機；  
你的尊容永遠留在我們心中，  
深深的思念只能化作辛酸淚。

想起舅舅在世的日子，  
我們像星星圍著月亮；  
上山砍柴山歡樂，  
出去趕馬路縮短。

如今舅舅離別了我們，  
上山感到山太高，  
趕馬覺得路更長。

每日三餐供え物を台の上に置きます。  
甥や姪はオジを懐かしんでいます。  
夢の中だけでオジに会うことができます。  
会えても触れることはできません。  
よい日々はまるで金の花のようです。  
よい生活は真珠の数珠のようです。

オジが生きていたころは、  
衣食に欠けていても楽しみに満ち溢れていた。

あなたは どうしてこんなに早く亡くなってしまったの？  
あなたへ恩返しをする機会も失ってしまいました。  
あなたのお姿は永遠に私たちの心の中にあります。  
深い思いはつらい涙に変わるだけです。

オジがこの世にいたころを思い出すと、  
私たち星が月を囲んでいるようでした。  
山に登って柴を刈るのも楽しく、  
趕馬<sup>8)</sup>に行くとき道が近く感じ、 ③

今オジが私たちを離れると、  
山に登ると山がとても高く感じ、  
趕馬に行くとき道がとても長く感じ、 ③

---

8) 趕馬とはキャラバンを組んで交易をすること。主に男性が担当し、摩梭人居住区ではチベットまで行くこともあった。

吃著酒肉沒味道。

酒を飲んでも肉を食べても美味しくない。

慈祥厚道的舅舅呀，  
我們日夜思念著你；  
沒有你日子真難熬，  
沒有你烤著火也冷。

慈しみ深いオジよ，  
私たちはいつもあなたを思っています。  
あなたのいない日々はととてもつらく，  
あなたがいないと火を燃やしても寒い。

舅舅養育我的時候，  
喝著冷水像喝牛奶，  
吃著元根像吃酥油，  
過著苦日子心也覺幸福。

オジが私たちを育ててくれたとき，<sup>③</sup>  
水を飲んでもミルクを飲んでいるよう，  
カブを食べてもバターを食べているよう，  
貧しい暮らしでも幸せを感じていました。

如今舅舅不在我們身邊，  
見到金子像石頭，  
看到銀子像冰塊，  
吃著蜂蜜像黃蓮。

今オジがわたしたちのもとにいなくなって，  
金を見ても石のよう，  
銀を見ても氷のよう  
蜂蜜を食べても黄蓮（オウレン）のようです。

以上はオジがなくなったことを供養する法事の席で歌われるオジを懐かしむ歌である。

『雲南摩梭人民間文学集成』271-272頁

伝承地区：寧蒗県永寧区拉伯郷

演唱者：甲補阿依

採集翻訳：拉木・嘎吐薩

日本語翻訳：筆者

以上の歌から、家族観を伺うことができる点を以下列挙する。

1. 育ててくれたのは母親で、母の傍を離れたくないという気持ちが強いこと。

「1」-1」の母親に捧げる歌や、「1」-2」の亡くなった母への感謝の歌のなかにあるように、「母が私を嫁がせても、私は母をすてることができない」「母を

置いて遠くに行くことはできない」など（歌中下線①で表示）の歌詞がよく見られ、母親のもとを離れたくない気持ちが強く存在することが分かる。筆者が1997年から2009年にかけて断続的におこなった現地調査において、20代の男女に家庭について質問したところ、大半は「母と離れたくない」「母と一緒に暮らしたい」という返答であった。しかし、1990年以降進められている観光開発の影響の受け、摩稜人の村の経済状況、生活環境は変化し、多くの若者は進学や出稼ぎなどで村を離れて生活するようになってきている。この状況の下、継承人がいないといった悩みを抱える家庭も出始めている。2006年8月の調査時に娘2人ともが進学で家を離れていた家庭で、家長（一般的には能力のある女性が受け持つ）に後継ぎのことについて尋ねると、「娘たちがいなくなるのは困るけど、教育を受けさせてやりたいし、楽な暮らしをさせたい」といった答えがかえってきた。その後、2009年3月の現地調査時には、そのうちの一人の娘が「自分は勉強するのは好きじゃないから、家にいて家事をする」と自らの意思で帰ってきていた。それに対し、その家の家長である娘の母親は「ここで暮らすと苦勞が多いから本当は都会で楽な暮らしをさせたかったが、本人が帰ってきたいというのなら、後継ぎになるからよかった」と言っていた。子供たちの進路選択は尊重されるが、娘には誰か一人は残って家を継いでほしいという気持ちがあり、先祖から受け継いだ家を代々受け継がなければならないという観念がみられる。

## 2. 母の意見を最も重視すること。

「1)-1」, 「1)-2」の歌で「私を一番理解してくれる」「母の同意を求める」「阿注（アチュ）を母に気に入ってもらいたい」とあるように（歌中下線②で表示）、婚姻に対して最も母の意見を尊重することが分かる。婚姻相手や形態を決めるのは、比較的個人で自由に決められるが、母親の意見は尊重したい気持ちが見られる。このことは家庭内での母親の権利の強さも表していると考えられる。

3. 父への歌は見当たらないが、母方オジへの歌は歌われている。

「1)-3], 「1)-4」の歌で、「外ではオジが力をもつ」「昔からオジが偉大だという礼節がある」と歌われており（歌中下線③で表示）、このような歌詞内容、また父親への歌は見当たらないが母方オジへの歌はたくさん歌われていることから、母方オジに対する畏敬の念と血縁の近さを感じとることができる。「趕馬に行くときとても道のりがとても長く感じ」という歌詞からもオジは外に出て仕事をして家庭を支える力があり、母とオジの二分立の分業が母系家庭の維持に重要であることが考えられる。母方オジへの歌が多く歌われることは摩梭人の家族形態をよく反映している。

## 2) 情歌（恋歌）

次に、情歌からその形式上の特徴と内容上の特徴を探り、摩梭人の恋愛観が歌にどのように反映されているかについて検討する。

### 2)-1 麻杆做桥梁（麻の茎で歌の橋をかける）

男：村前大槐樹，                    村の入口のエンジュの木は、  
      是村里的一朵花。              村の花だ。

女：房後的大桃樹，                家の後ろの桃の木は  
      是家里的一朵花。              家の花だ。

男：山下的小玫瑰，                山のふもとの小さなバラは  
      是山里的一朵花。              山の花だ。

女：路邊蒿枝花，                  道のわきのヨモギの花は  
      是大路的一朵花。              道の花だ。

男：綠葉海棠花，                  緑葉の海草花は  
      是瀘沽湖里的一朵花。          瀘沽湖の花だ。

女：杜鵑和山茶，                  ツツジとサザンカは

是格姆山上最美的花。

格姆山<sup>9)</sup>でもっとも美しい花だ。

男：麻杆做橋梁，  
搭起歌橋来。

麻の茎で橋をつくって，  
歌の橋をかけよう。

女：藤木做橋樑，  
搭歌橋材料最好。

藤の木で橋をつくると，  
よい材料で歌の橋を作ることができる。④

『雲南摩梭人民間文学集成』276頁

伝承地区：寧蒗永寧八珠村

歌い手：阿補阿旦直巴魯直

記録翻訳：楊爾車

日本語翻訳：筆者

## 2)-2 是不是尋找落脚的地方（休む場所を探しているのですか？）（独唱）

我的歌声像百靈鳥一樣飛起来，  
它是飛向心中的阿珠的。

私の歌声は百靈鳥のように飛んでいく。  
それは思いを寄せている阿珠（アジュ）  
に飛んでいく。

高山上的美麗的花朵，  
一年只会開放一次。

高山の美しい花は，  
一年に一度だけ咲く。⑥

（初恋は一度だけという意味か、一度だけの人生だから恋する気持ちを大切にしたいという意味）

遠天遠地來到我們的的地方，  
是什麼寶貝吸引了你。

遠いところから私のもとに来たのは，  
どんな宝があなたを引きよせたのでしょうか。

（相手が私に感情をもっているか探っている）

---

9) 獅子山とも呼ばれ、摩梭人からは女神山をして崇められており、旧暦7月25日は山に登って女神を拝する祭りが行われる。

高山頂上的牡丹花，  
不見春天它不開。

(好きではない人と阿夏“アシャ”にならないという意味)

高山の頂上の牡丹は、  
春がこないと咲かない。⑥

想到高山燒一柱香火。  
採不到檀香怎麼辦？

高山に香を焚きに行きたいが、  
香が採れなかったら、どうすればいいの  
だろう。

(摩梭人は仲間をつくって格姆山に登って女神を拝する。ここでは意中の人をさがせず同行する仲間がないので、相手に同行できるかどうか尋ねている)

遠方来的阿珠呀你不动情，  
你的心是不是铁打的？

遠くから来た阿珠（アジュ）<sup>10</sup>よ、どうして心を動かさないのか、  
あなたの心は鉄でできているの？

阿珠我們有緣相会在一起，  
雖沒有礼物卻笑臉相迎。

阿珠（アジュ）、私たち縁あって一緒に  
いることができれば、  
贈り物はないけど笑顔で迎えます。⑥

阿珠我們結伴来，  
繞瀘沽湖走一圈。

阿珠（アジュ）、私たちは結ばれて、  
歩いて瀘沽湖を回しましょう。

從遠方趕来這裏的阿珠，  
是不是尋找落脚的地方？

遠くから来た阿珠（アジュ）よ、  
休む場所を探しているのではないですか？

我們都是遊樂在高山上的，人，  
難說哪天還會在別一座山上見面。

私たちは高山の山頂で遊んでいる。  
別の山の山頂でまたいつか会うかもしれ

---

10) 男女の呼びかけの「阿珠（アジュ）」は「阿注（アチュ）」「阿夏（アシャ）」と同様に走婚をする男女間の呼称である。

ない。

(今日は阿珠 (アジュ) にはなれなかったが、いつか結ばれるかもしれない)

『雲南摩梭人民間文学集成』279-281頁

伝承地区：四川省左所区

歌い手：拉叢

収集：陳烈，拉木・嘎吐薩

翻訳：拉木・嘎吐薩

日本語翻訳：筆者

2)-3 小小火塘燒得下 (ちいさな囲炉裏を燃やすことができる)

男：山頂的樹再高再大，

山頂の木がどんなに高く大きくても，

小小火塘燒得下

ちいさな囲炉裏を燃やすことがで

きる。

(どんなに自信家の娘でも真剣に追い求めれば手に入れることができる)

女：我不是看上你的錢財，

わたしはあなたの財産を好きになっ

たのではない

有錢難買一副好心腸。

お金があっても心は買えない。⑥

男：財富不会伴隨人一輩子，

財産は一生つきそってくれるもので

はなく、

只要心理有愛著的人日子會好過。

心に愛する人がいれば楽しくすごす

ことができる。⑥

女：別小看了小溪和屋檐水，

小さな溪谷と樋の水をばかにしては

いけない。

它也能流出一條江

小さな流れの水も大河に流れていく

ことができる。

男：馬跑得好不好，  
騎上馬背才知道。

馬がよく走るかどうかは、  
馬に乗ってみてようやく分かる。

女：我阿夏的路太遠了，

私の阿夏（アシャ）の道はとても  
遠く，

（ここでは、1. 遠く離れている。2. 感情が離れている。3. 自分とかけ離れて  
いるという3つの意味が考えられる。）

想起来都累了。

考えると疲れる

男：愛情就像裁剪新衣服，

愛情は新しい服をつくるようなも  
のだ。

哪件合適就穿哪一件。

似合う服を着ればよいのだ。

女：風塵喜山隨著山勢飄去，  
山水喜洶隨著洶流去。

砂埃は山から山へ飛んでいき、  
山水は谷に沿って流れていくのだ  
（それぞれ好みがある）

男：不管風浪有多高，

風がどんなに大きく、波がどんなに  
高くても

船兒只会繞著湖灣走。

船はただ湖に沿っていく。

（自分が好きであれば、他人がどのように言おうと愛情が揺らがないという意味）

女：把男人接到家中來，  
称心如意過日子。

男を家に迎えて、  
心の赴くままに過ごします。

『雲南摩梭人民間文学集成』283-284頁

伝承地区：寧滄永寧区拉伯郷

歌い手：澤兒独瑪（摩梭人）

採集翻訳：拉木・嘎吐薩

日本語翻訳：筆者

2)-4 鋪好了座墊迎阿珠 (座布団を敷いて阿珠(アジュ)を迎える)(独唱)

林邊響過來三声馬鈴聲,  
我以為我的阿珠到來了。

林の方から馬の鈴音が鳴っている。  
私は阿珠(アジュ)が来たのかと思った。

門外響起三声靴子聲,  
我鋪好了座墊迎阿珠。

門の外で足音が三回だったので、  
わたしは座布団を敷いて阿珠(アジュ)を迎える。

我不想他心里還自在,  
一想起他來心就醉。

彼のことを考えなければ気持ちが楽だが、  
彼のことを考えると心が苦しくなる。

想起你溫柔體貼的話語,  
我一輩子當牛做馬也樂意。

あなたのやさしく思いやりのある話を思い出すと、  
私は一生あなたのために苦勞をしても後悔しない。

半山腰的松樹雖很矮小,  
樹根下埋著的卻是茯苓。

山の中腹の松は低くても、  
根の下には茯苓(サルノコシカケ)が埋まっている。⑧

(器量はよくないが、能力はあるという意味)

美麗的地方你逛夠了,  
請你撒下一把蕎子種。

あなたは美しい場所もう十分に回ったで  
しょうから  
どうぞここにソバの種をまいてください。

(若い時は風流だが、一定の年齢になったら意味叶う伴侶を見つけなければならぬという意味)

歌 い 手：米日・都瑪咪，根若爾青

採集 翻 訳：拉木・嘎吐薩

日本語翻訳：筆者

## 2)-5 我們不能歇在一顆樹上（私たちは一本の木で休めない）

走婚中の阿夏との付き合いを断る歌

扭成七節的矮松樹，  
別想在我家屋檐下。

くねくねした七つの節がある背の低い松は、  
私の家の樋の下には生えない。⑧

心兒像豬尿一樣飄在水上的人，  
別進我的門檻你走你的路。

心がブタの小便のように水に浮く人は、  
うちの敷居をまたがないで、あなたはあなた  
の道を行ってください。

舅舅達巴謝謝你，  
念曲終後送頓飯打發他。

オジ，達巴（ダバ）よありがとう。  
魔除けをして彼を追い返してくれた。

（嫌いな男性が訪ねてきたのでびくびくして、遠くからダバが魔除けをしているのを見ているという意味で、相手を風刺している。）

合適的馬鞍才好騎馬去遠方，

ちょうどよい馬鞍があつてこそ馬にのつて  
遠くに行ける。

不合適的馬鞍不如早丟了。

合わない馬鞍は早く捨てたほうがよい。

過去的阿珠啊別再進我的門，

昔の阿珠（アジュ）よ，二度と私の家に入  
らないで。

我的門永遠不会对你開。

私の家のドアはあなたに開けることはない。

你的心里可能想著我，

あなたは私のことを思っているかもしれな  
いが、

可一顆樹上栖不下兩只鸚鵡。

一本の木の上で二羽のオウムは休めない。

我是高山上流来的神水，  
怎会跟污泥中的水流在一起。

私は高山から流れる清らかな神の水なので、  
どうして泥水と一緒に流れることができようか。

我們不是長在一座山上的樹，  
樹根哪能連在一起？

私たちは一つの山に育つ木ではないので、  
木の根がつながることはできないでしょう

我是一朵山里的野花，  
怎麼能讓蜜蜂蝴蝶歇在一起？

私は山の野花なので、  
どうしてミツバチや蝶と一緒に休ませることができようか？

以往我不知底細跟你相好了，  
你不要以為我真心想著你。

以前私はよく知らずにあなたと仲好くなったが、  
私が心からあなたのことを愛していたと思わないで。

我的心里裝滿了說不完的歡樂，  
怎能跟一個愁眉苦臉的人過一生。

私の心は話し終えないほど沢山の楽しみで  
満たされているので、  
どうしてあなたと苦しい人生を過ごすことができましょうか。

天下的道路多得走不完，  
我們還是各走各的路。

世の中の道は歩き終わらないほどたくさん  
あるので、  
私たちはやはりそれぞれの道を歩きましょう。

地上的橋多得数不清，  
請你不要擋住我過的橋。

地上の橋は数え切れないほど多いので、  
私が渡る橋を遮らないで。 ⑤

要是母雞不下蛋，                      もし母鶏が卵を産まないのなら，  
就是把母雞捏死也無用。              母鶏をひねり殺しても意味がない。

(両想いでなければ，一方的に追い求めても意味がない)

(中略)

雖然我們在高山の丫口見面，              わたしたちは山の分かれ道で出会ったが，  
但走去的路不会是一条。              行く道は同じ道ではない。

如果遇上意中の人，                      もし意中の人に会ったら，  
我的情歌会像樹葉一樣落。              私の情歌は木葉のようにたくさんながれ落  
ちるだろう。④

『雲南摩梭人民間文学集成』311-313頁

伝承地区：寧蒗永寧区拉伯郷

歌い手：高若瑪，達都など（摩梭人）

採集翻訳：拉木・嘎吐薩

日本語翻訳：筆者

## 2)-6 走婚を断る

我家后邊有一片果林，                      私の家の後ろには果実林があるが，  
不讓蜂来採蜜。                              蜂に蜜は採らせない。

## 2)-7 別れ

山羊毡子我背走，                              私はヤギの毛で作ったフェルトをかけて行く。  
今后各走各的路。                              これからはそれぞれの道を歩む。

以上2首「女兒国的歌」『民間文学壇論』30-31頁

伝承地区：寧蒗県永寧区

収集翻訳：宋兆麟

日本語翻訳：筆者

以上7首の歌をあげたが、形式上からみる特徴は以下の点である。

1. 『雲南摩梭人民間文学集』(1990:275-276)では情歌について、歌い始めは愛の賛美や崇高さを歌うことはなく、初めから愛の賛美を歌う場合は自分の恋人にのみに限定して歌われる。「阿夏(アシャ)=恋人」,「阿注(アチュ)=友達」あるいは「阿珠(アジュ)=兄あるいは姉」と互いに呼びかけ,「愛」という言葉は使わず,通常「好き」という言葉を使う。歌掛けであっても独唱であっても,歌い始めは相手をけなして自分を讃える歌が多く,ある程度歌ってから互いを褒めあい,興がのってきってから最後には気持ちが合わさるという内容の歌が多いと記述されている。『モソ人社会の歌世界調査記録』(2003:79)では「歌垣の現場では,歌掛けがその理念<sup>11)</sup>の歌垣どおりに進行することはなく,臨機応変の力学がそこにある」と述べられている。

本文で取り上げている2)-1)の歌では,一方が自分の自慢歌を歌うと,「村のエンジュ VS 家のモモ」「山のふもとのバラ VS 道端のヨモギ」「瀘沽湖の花 VS 格姆山の一番美しい花」といったように,相手の歌詞に対比した自慢歌を歌い,互いに歌掛けが成立するかどうかを競いあいながら,探りを入れている。このような形で掛け合いが始まることが多いが,その他今回取り上げた歌をみると,歌詞は臨機応変につくられ,歌掛けの場合は相手の歌の内容に合わせて歌を掛け合うことに重点がおかれており,内容全体に統一性がない歌が多く,「始めは自慢歌などで始まり,最後には気持が一つになるという一定の歌の流れ」には固定していないことが理解できる。これらのかけ合いの歌には恋人を求めることの他,繰り返すことによって,歌の形式,即興での歌詞の掛け方を学ぶ役割りがあるのではないだろうか。

2. 居住地の自然や日常生活の中で使うものなどに比喩する。

例: 山      高山, 雪山, 大山, 谷, 溪谷, 石

---

11) ここでいう「その理念」とは,中国における少数民族歌謡の説明において,1.男女が知り合う。2.気に入れば相手を讃美する。3.問題があれば相手の不実を責める。4.互いを理解すると結婚する。という順序によって恋歌がうたわれるという理念で解釈されることを指す。

花	杜鵑花（ツツジ）、山茶花（サザンカ）、蒿枝花（シユンギクの花）
木	柏松樹（コノデカシワ）、青松、竹、麻の茎、藤の木、槐樹（エンジュ）
水	瀘沽湖、大河、小さな谷
植物	茯苓（サルノコシカケ）、莽子（ソバ）、木葉、菖蒲
鳥	雁（カリ）、鷹（タカ）
動物	獐子（ノロ）、馬鹿（アカシカ）、鸚鵡（オウム）、馬、蜜蜂、蝶、犬、鶏、豚
飲食	水、ミルク、酒、茶、塩
その他	橋、道、雲、歌

比喩の使い方の特徴として、一つの比喩に一定の価値観が定まっておらず、正と負の両面から捉えられることが多い。（例：鸚鵡（オウム）の比喩はよくしゃべりうわさを流すという負の面と走婚をする恋人という正の面がある）

男女の比喩するのにも、男女の区別はなく、例えば、馬鹿（アカシカ）などは歌の相手によく例えられるが、男の場合でもあるし、女の場合でもある。アカシカが女性を比喩する場合、男性は獵犬に例えられ、獵犬がアカシカを追うと歌われ、アカシカが男性を比喩する場合、女性が草に例えられ、アカシカが草を探すと歌われるように、即興での歌のやりとりの中で変わる。

また、生活環境を反映している比喩が多く、男女を水とミルク、茶と塩に比喩するなど、バター茶を毎朝食する風習が現れており、「山を越える」「湖を回る」といった山岳地帯に暮らす彼らの自然環境も反映され、その移動する行為が「走婚」を表している。

このように比喩や句の意味が多義にわたると、解釈が難しくなり、歌掛けが成立しなくなるのではないかという問題が生じる。しかし、歌の中では固定句も多く使われ、双方が同じ解釈を持てることによって歌掛けを続けることができるようになるという。『モソ人社会の歌世界調査記録』（2003：79）によると、



- 「それぞれの道を歩きましょう」「行く道は同じではない」などといった歌詞がよく見られ、感情が冷めたらそれぞれに暮らすという考えが見られる。
5. 男女は共に暮らすことはなく、男性が通うという「走婚」の特質が表れている。「2」-3「2」-4にみられるように、男性が来る道のりが遠いことや、馬の鈴を聞く（つまり趕馬をする男性が来る）、足音を聞くなど、男性が女性のもとに通うという「走婚」の特徴が歌詞中に頻繁に表れる。
6. 娯楽としても要素が強く、互いに歌を掛け合い、うまく切り返せるかどうか競う遊びとしても捉えられている。

#### 4. 現代の流行歌と変化

今日、観光化が進む中で、摩梭語をできる子どもたちが減り、民族言語の消失がすすんでいる。歌唱文化についても、摩梭語の歌に変わり、観光客を相手にしたショーで歌う摩梭の風習や伝統歌詞を漢語編集したものが広く歌われるようになり、摩梭人の間でも漢語の歌が中心に歌われるようになった。以下2首の流行歌を挙げるが、いずれも自然比喩など従来の風合いをもっているが、摩梭の母系社会という風習に焦点をあてることに用いられている。

##### 4)-1 瀘沽湖情歌 邱礼農作詞 尚義、企偉作曲

小阿妹，小阿妹，隔山隔水来相会，素不相識初见面，只怕白鹤笑猪黑。阿妹，阿妹，瑪達米……

小阿哥，小阿哥，有缘千里来相会，河水湖水都是水，冷水烧茶慢慢熟。阿哥，阿哥，瑪達米……

親妹妹，親妹妹，滿山金菊你最美，你是明月當空照，我是星星緊相隨。阿妹，阿妹，瑪達米……

親哥哥，親哥哥，人心更比金子貴，只要情誼深如海，黃鴨就會成双對。阿哥，阿哥，瑪達米……

妹よ、妹よ、山や川を隔てて、初めて出会いました。でも白鶴から黒豚が笑われるのではないかと心配だ。妹よ、妹よ、マダミ……

兄よ、兄よ、離れていても縁があって出会えました。川の水も湖の水もどちらも同じ水です。冷たい水をゆっくり温めましょう。兄よ、兄よ、マダミ……

親愛なる妹よ、親愛なる妹よ、山の金菊の中でもあなたが一番美しい。あなたは月で空を照らし、私は星であなたについていく。妹よ、妹よ、マダミ……

親愛なる兄よ、親愛なる兄よ、心は金より尊い、情が海のように深ければ、カモは対になって飛びます。兄よ、兄よ、マダミ…… (筆者訳)

#### 4)-2 花楼恋歌 邱礼農作詞 安渝作曲

阿哥哟，阿哥哟，月亮才到西山頭，你何須慌慌地走。阿哥哟，阿哥哟，月亮才到西山頭，你何須慌慌地走。火塘是這樣地温暖，瑪達米：我是這樣地溫柔，瑪達米。人世茫茫難相愛，相愛就刻到永遠！阿哥，你離開阿妹走他鄉，只有憂愁哟。你離開阿妹走他鄉，只有憂愁，只有憂愁，瑪達米……

兄よ、兄よ、月はまだ西の山の上だから、慌てて帰ることはない。兄よ、兄よ、月はまだ西の山の上だから、慌てて帰ることはない。囲炉裏はこんなに温かい。マダミ……。私はこんなにやさしい。マダミ……。人の世は広々として出会うのが難しいので、愛し合ったら永遠に！兄よ、妹を離れ他郷に行っても、憂うだけだ。マダミ……。兄よ、あなたは妹を離れ他郷に行っても、憂うだけだ。マダミ…… (筆者訳)

以上2曲 中国唱片成都公司出版

塩源县旅遊公司・中国唱片成都公司連合録音

以上の歌は観光客向けの湖遊覧や民族舞踊会の時によく歌われる歌で、若者は労働する時などにもよく歌っている。これらの歌は80年代以前に収集された歌の内容に多くの比喩が含まれ句の多義性が認められることに比べ、従来使われてきた比喩表現を用いながらも「走婚」を強く意識して強調した単一的内容の歌になっている。このことから、「走婚」が観光用として宣伝され、走婚の

特徴だけがピックアップされ、感情を込めて歌う情歌ではなくなったことが分かる。今日、摩梭人は即興で歌をつくることは非常に少なくなったが、比喻を使って冗談をいいながら互いの悪口を言い合う歌は時々歌われるという。娯楽とコミュニケーションの要素としての歌掛けは今日もまだ受け継がれている。

最後に今後の課題として、摩梭人だけでなく多様な婚姻形態をもっている納西族全体の歌の検証をすすめ、比較検討したい。

### 参考文献

- 遠藤耕太郎『モン人社会の歌世界調査記録』大修館書店 2003年  
金縄初美『つながりの民族誌 — 中国摩梭人の母系社会における「共生」への模索』春風社 2016年  
工藤隆『雲南省ペー族歌垣と日本古代文学』勉誠出版 2006年  
工藤隆『歌垣の世界 歌垣文化圏の中の日本』勉誠出版 2015年  
曹咏梅『歌垣と東アジアの古代歌謡』笠間書院 2011年  
白庚勝『納西族学論集』民族出版社 2008年  
陳烈主編、秦振興、拉木・嘎吐薩副主編『雲南摩梭人民間文学集成』中国民間文芸出版社 1990年  
和少英『納西族文化史』雲南民族出版社 2000年  
李耀宗編『中国少数民族情歌選』四川民族出版社 1985年  
鹿億鹿『中国民間文学』里仁書局 1999年  
《納西族文学史 編纂組》『納西文学史』四川民族出版社 1989年  
彭兆栄『西南舅権論』雲南教育出版社 1997年  
宋兆麟「女兒国的歌」『民間文学壇論』P28-32 1985年  
宋兆麟・嚴汝嫻『永寧納西族母系制』雲南人民出版社 1983年  
楊知勇他編『雲南少数民族婚俗誌』雲南民族出版社 1983年  
朱宜初・李子賢 主編『少数民族民間文学概論』1983年